

View this email in your browser



Photo ©Muramatsu Katsura(Calo works)

開館記念企画「交響：クロス・スケープ」の会期終了まであと15日となりました。KeMCoでは国際シンポジウムをはじめとしてオンライン・ギャラリートーク、一貫校生へのワークショップなどの関連企画を実施し、たくさんの新しい交わり、かわわりが生まれています。

開館記念企画は6月18日（金）までの会期です。ぜひお越しください。

KeMCoの近況

国際シンポジウム「本景——書物文化がつくりだす連想の風景」開催



左から佐々木孝浩教授（南進文庫）、松田隆美KeMCo機構長、徳永聡子教授（文字部）

5月29日（土）に国際シンポジウム「本景——書物文化がつくりだす連想の風景」（主催：KeMCo）がオンラインにて開催されました。

パネリストとして、海外からはクリスチャン・イエンセン氏（大英図書館前収書・司書部長）、アレクサンドラ・ギレスピー氏（トロント大学副学長）、アレクサンドロ・ピアンキ氏（ボドリアン日本研究図書館 館長）をお招きし、また、慶應義塾からは、佐々木孝浩氏（慶應義塾大学附属国際研究所東洋学専攻教授）、徳永聡子氏（文学部教授）、松田隆美氏（KeMCo機構長/文学部教授）に登壇いただき、様々な専門分野と知的観点から書物の文化的価値の考察が発表されました。

後半のパネルディスカッションでは、現代における書物のデジタル化（デジタルツールでの複製・流通）と保たれるべきアナログ性（実際に手にすること）の両立という、今後の書物の在り方も問われました。シンポジウム全体を通じて、様々な専門的観点からの書物の意義を再検討することで、後世に遺されるべき文化財としての書物の姿を見出すことができました。

国際シンポジウム 本景：Book-scape

オンラインギャラリートーク



KeMCoM ギャラリートーク | 集景——集う景色：慶應義塾所蔵文化財より

企画展「交響：クロス・スケープ」の関連企画として、ギャラリートーク「文字景—センチュリー赤尾コレクションの名品に見る文と象」を、5月21日（金）にオンラインで開催いたしました。

本展覧会監修者の佐々木孝浩先生もお招きし、KeMCo学芸員の松谷先生とともに展示作品それぞれの美しさや鑑賞のポイント、時代背景についても詳しく紹介されました。リアルタイム配信を見逃してしまった方もご覧いただけるよう、追録・編集してYoutubeにも本日アップしました。

また5月26日（水）には、企画展「集景——集う景色：慶應義塾所蔵文化財より」のオンライン・ギャラリートークがYoutubeに公開されました。

本展覧会の企画者である渡部葉子先生を招き、KeMCoMがインタビューを行いました。

文字景ギャラリートーク

集景ギャラリートーク

「オンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX 交響：クロス・スケープ」リニューアルオープン



企画展「交響：クロス・スケープ」の関連企画として、昨年開催されたオンライン展覧会「Keio Exhibition RoomX: 人間交響」がリニューアルオープンしました。

今回は英語への対応のほかに展示カタログの公開機能なども加わり、KeMCoにお越しになれない方も楽しくご利用いただけます。

RoomX 交響：クロス・スケープ

KeMCo 360 VIEW 交響：クロススケープ



KeMCoでは展示室の3D撮影を実施し、KeMCo開館記念展「文字景——センチュリー赤尾コレクションの名品に見る文と象」、「集景——集う景色：慶應義塾所蔵文化財より」、図書館展示室「（西洋）文字景—慶應義塾図書館所蔵西洋貴重書にみる書体と活字」の3つの展示を3D空間でもご覧いただけるようになりました。

お手持ちの端末から展示室を360度見渡して、展示を自由に堪能いただけます。

KeMCo 360 VIEW

「Keio Object Hub」が「Japan Search」と連携開始

5月28日（金）に「Keio Object Hub」が、国の分野横断型統合ポータル「Japan Search（ジャパンサーチ）」との連携を開始しました。

この連携を機に、Keio Object Hubで公開されているデジタル・コンテンツやメタデータがJapan Search上でも検索可能となります。また、他機関所蔵のコンテンツとの横断検索が実現することにより、慶應義塾と全国の文化財が結びついていきます。

プレスリリース

「文字景—センチュリー赤尾コレクションの名品に見る文と象」展示間所替え

5月24日（月）から一部の「文字景」展作品の展示箇所を変えて公開しています。

Keio Object Hubでは、会期中は非公開の箇所をデジタル画像で公開しています。是非こちらもあわせてご覧ください！

展示箇所を変更した作品
三十六歌仙絵巻〔詞書〕、西行法師行状絵巻〔詞書〕
源氏物語〔抄出〕〔書画〕(No. 26)
源氏物語〔葵〕(No. 27)など

Keio Object Hub

展示室より、推しモノ #02



西脇晴三郎《池のある風景》1950年

今回は「集景」展示室から1点をご紹介します！
広がる自然のなか池の前で佇む人物たち、涼やかな情景が広がる本作品は、詩人・英文学者として知られる西脇晴三郎による《池のある風景》(1950年)です。

今回の推しモノは、ずばり「画面の発色の美しさ」にあります！普段是三田の図書館新館内閲覧室の少し高い位置に飾られている本作ですが、このたびの展示で目線の高さにもってきて照明を当ててみたところ、ハッと息をのむような繊細な色の重なりと輝きをみせてくれました。展覧会では主題を楽しむことと同時に、マテリアルとしての油絵の具の質感や色合いもお楽しみいただけます。本展覧会は作品を間近に鑑賞いただける展示デザインになっていますので、素材や技法、作家ごとの筆致や息遣いを、ぜひ会場でご堪能ください！（なお、慶應義塾で教鞭を執っていた西脇については、慶應義塾大学アート・センターにアーカイブ資料が所管されています。）

長谷川紫穂（KeMCo所員）

空き地

KeMCo学芸員補 島田和

今春より、博士課程に所属する傍らKeMCo学芸員補としてお仕事をさせていただいております。

開館から一年半、瞬く間に時は過ぎ、グランド・オープン記念企画「交響：クロス・スケープ」は閉館まで残り2週間となりました。本展はイベントも目白押しで、KeMCo講座や慶應義塾の高等部・中等部生の見学やワークショップなど、オブジェクトを中心にさまざまな目線と発想が交わる景色をみることもできました。国際シンポジウム「本景：書物文化がつくりだす連想の風景」では、書物を鑑賞対象とする研究者が、国を超え、分野を超えて出会い、先生方の描きだす壮大な研究世界に感銘を受けました。

「ハブ」「空き地」として着実にスタートを切りつつ、KeMCoはコレクションを有する施設でもあります。「モノ」は動く、けれどもそれを、KeMCoにおいてはどう解釈し、伝えていくのか。連想の根づきとなる研究の重要性を改めて認識し、精一杯勉強させて頂きたいと思う次第です。

お知らせ

慶應義塾カルチャーパス

KeMCoにて開催中の「交響：クロス・スケープ」、「Artist Voice: 河口龍夫 無呼吸」（アート・センター）の2つの展覧会を1つの予約でお楽しみいただける共通予約パスです。

慶應義塾カルチャーパス

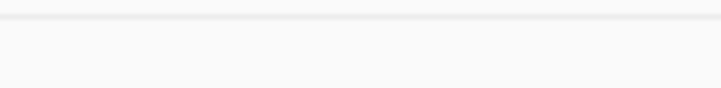
KeMCo Voiceでは皆様のご意見・ご感想を募集しております

KeMCo Voiceやミュージアム・コモンズへご意見・ご感想がございましたら、以下のアドレスまでお寄せいただければ幸いです。

いただきましたご意見は匿名でご紹介させていただく場合がございます。紹介をご希望でない場合はその旨をお書き添え下さい。

> ご意見・ご感想はこちら

今回のKeMCo Voiceは2021年7月に配信予定です。
過去のニュースメールはこちら



Copyright © 2019-2021 慶應義塾ミュージアム・コモンズ Keio Museum Commons

〒108-8345 東京都港区三田2-15-45

Tel: 03-5427-2021 Fax: 03-5427-2022

お問い合わせ

KeMCo Voiceの配信停止をご希望の方はこちら

why did I get this? unsubscribe from this list update subscription preferences

慶應義塾ミュージアム・コモンズ 2-15-45Minato-ku, Tokyo 108-8345 Japan

